

〈道徳〉

自分との関わりで道徳的価値の理解につながる道徳の授業づくり ——明確な指導観を支える「教材分析シート」の作成と活用（第 2 学年）——

名護市立名護小学校教諭 大 嶺 結 子

I テーマ設定の理由

平成 30 年度より、小学校では「特別の教科 道徳」が全面実施され『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（平成 29 年告示、以下『解説道徳編』）では、道徳科の目標を「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」と示している。これまでの道徳の時間は、教材の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる等の課題が指摘されていた。単に教材を読み取るのではなく、ねらいとする道徳的価値について自分との関わりで考え、互いの考えを交流し合うことで、自分の価値観を深められるような授業改善が求められている。

これまでの私自身の実践を振り返ると、前任校で文部科学省の道徳の研究指定を受け、「道徳の授業づくりの理解」と「道徳の授業の実践力向上」に取り組んだ。そこでは、「教材分析シート」を用いて授業づくりを行ってきた。この分析シートは、大きく二つに分けて構成されている。一つ目は、『解説道徳編』を基に教師の価値観を明確にし、児童の実態を踏まえ、本時のねらいを設定する部分である。二つ目は、読み物教材の大まかなあらすじをおさえた上で、登場人物の心情の変化に沿って展開前段の発問を考え、その中から本時のねらいにせまる発問を精選していき、展開後段の自己の生き方にせまる発問につなげ、本時の展開部分を完成していく構成になっている。これまでの分析シートは、登場人物が出てくる読み物教材の分析に役立ち、明確な指導観に沿った授業を構想することができた。

しかし、教材によってはこの分析シートを用いても、授業を構想しにくいと感じることもあった。例えば、物語ではなくいくつかの写真や絵で構成されている教材は、登場人物が存在しないこともあり、登場人物と自分自身を重ねて考えていくのが難しい。また、「生命や自然」「伝統・文化・国際理解」等の内容項目の教材では、新聞記事やグラフ、詩等が扱われることもある。このような教材の場合、これまでの分析シートでは「どの場面で、どのように発問するか。」がはっきりと決められず、発問が曖昧になってしまった。すると、児童は教材の内容を自分事として考えることができず「自然を大切にしようと思った。」「地域の行事に参加して楽しかった。」等、一般的な記述（振り返り）ばかりになっていた。結果として、児童がねらいとする道徳的価値にせまることのできない授業になってしまっていた。

この課題を解決するためには、2つの手立てが必要ではないかと考える。1つ目は、展開部分の構想を改良した「教材分析シート」の作成である。「どこで道徳的価値を理解させるか。」「どこで多面的・多角的に考えさせるか。」等、教材の特質に合わせて分析できるシートがあれば、ねらいとする道徳的価値にせまる教材分析ができるであろう。2つ目は、シートの改良の視点にも係る発問の構成である。ねらいにせまるために、登場人物の心情の変化の視点ではなく、道徳的価値の理解（価値理解、人間理解、他者理解）を中心に捉える視点で、読み物教材を分析し、教材のどの部分でその価値をおさえるのか考え、発問を生み出すという方法である。

このように、改良した「教材分析シート」を用いれば、ねらいとする道徳的価値にせまる発問を構想することができると考える。それによって、児童が自分との関わりで道徳的価値を理解することにつながると考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

道徳科の授業づくりにおいて、明確な指導観を支える「教材分析シート」を用いて授業を構想する

ことで、ねらいとする道徳的価値について、児童が自分との関わりで理解を深めることができるであろう。

Ⅱ 研究内容

1 自分との関わりで道徳的価値を理解することについて

『解説道徳編』では、「様々な問題場面に出会った際に、その状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳的実践を行うためには、道徳的価値の意義及びその大切さの理解が必要になる。」とあり、「道徳的価値の理解を図るには、児童一人一人がこれらの理解を自分との関わりで捉えることが重要である。」と示されている。また、赤堀博行（2017）は道徳の授業について、「一人一人の子どもが道徳的諸価値を自分自身の問題として受け止め、自分事として考え、理解し、将来出会うであろう様々な問題、状況においても、道徳的諸価値を実現するための適切な行為を選択して実践できるようにするための内面的資質を養うことを目指して行われる。」と述べている。

つまり、道徳の授業では、自分との関わりで道徳的価値の理解を深めることが求められる。そこで、本研究では「自分との関わりで道徳的価値を理解する」とは、「自分事として考えたり感じたりして、道徳的価値を理解すること」とする。そのためには、児童自身のこれまでの経験や感じ方、考え方を基に、道徳的価値について理解を深めることができるような学習が必要である。「自分だったらこう思う。」「このような気持ちになる。」というような、児童が自分事として考えた発言や記述等を見取ることができれば、自分との関わりで道徳的価値を理解していると考えることができる。

今回作成する分析シートが、授業構想や教材分析に活用できるかどうかは、実際にシートを活用して検証授業を行い、児童の発言や振り返り等の記述について、児童が自分自身との関わりで道徳的価値の理解を深めたかどうか、という視点で分析する必要がある。また、その結果を検証以前の授業の記述等と比較分析することで、シートの有用性を図ることができると考えた。

2 明確な指導観について

道徳の授業づくりにおいて、赤堀（2017）は、「子どもの良さや課題を明らかにして、授業で何を考えさせたいのか、その方針を焦点化する『明確な指導観』を確立することが重要である。」と述べている。指導観は、ねらいや指導内容についての授業者の捉え方（価値観）、ねらいとする道徳的価値を視点とした児童の実態（児童観）、価値観と児童観を基にした教材活用の方角性（教材観）の3つの要素で成り立っている。児童が自分との関わりで道徳的価値を理解するには、授業者が児童らに何を考えさせたいのか、指導観を明確にする必要があると考える。

これまでの分析シート（図1上段）は、価値観については内容項目を書くのみで、教材観は物語の場面ごとに細かく書いていた。3つの要素をどのように捉えているのか記入する部分が、十分であるとは言えなかった。そこで、改良する分析シート（図1下段）には、授業者が3つの要素をどのように捉えているのか、繋がりを意識しながら考え、記入できるように枠を工夫する。そうすることで、ねらいとする道徳的価値について、明確な指導観を生み出すことができるであろうと考える。3つの要素については、それぞれ以下のことに気を付けて記入する。

価値観は、ねらいとする道徳的価値についての授業者の捉え方であり、それを考える際の根拠になるものは『解説道徳編』の「内容項目の概要」や「指導の要点」に示されている。ここを参照して、当該学年の内容について捉え、他の学年段階の内容も視野に入れて、授業者の価値観を明確にする。

児童観には、道徳的価値に関する児童のこれまでの学習状況や実態、授業者の願い等をまとめる。児童観を明確にするには、まず、これまでの行動や様子からねらいとする道徳的価値に関わる児童の良さ、課題を把握する。その実態から児童の無自覚なところ、不足しているところを捉え、本時で考えさせたいこと、学ばせたいことを明確にする。この児童観が、授業の中心的な学

習の支え、つまり、中心発問や問題解決的な学習の問題などの基盤になる。

教材観には、使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法等をまとめる。授業者の価値観や児童観に基づいて、教材のどの場面で考えさせるのか、どのように活用するのか明確にする。

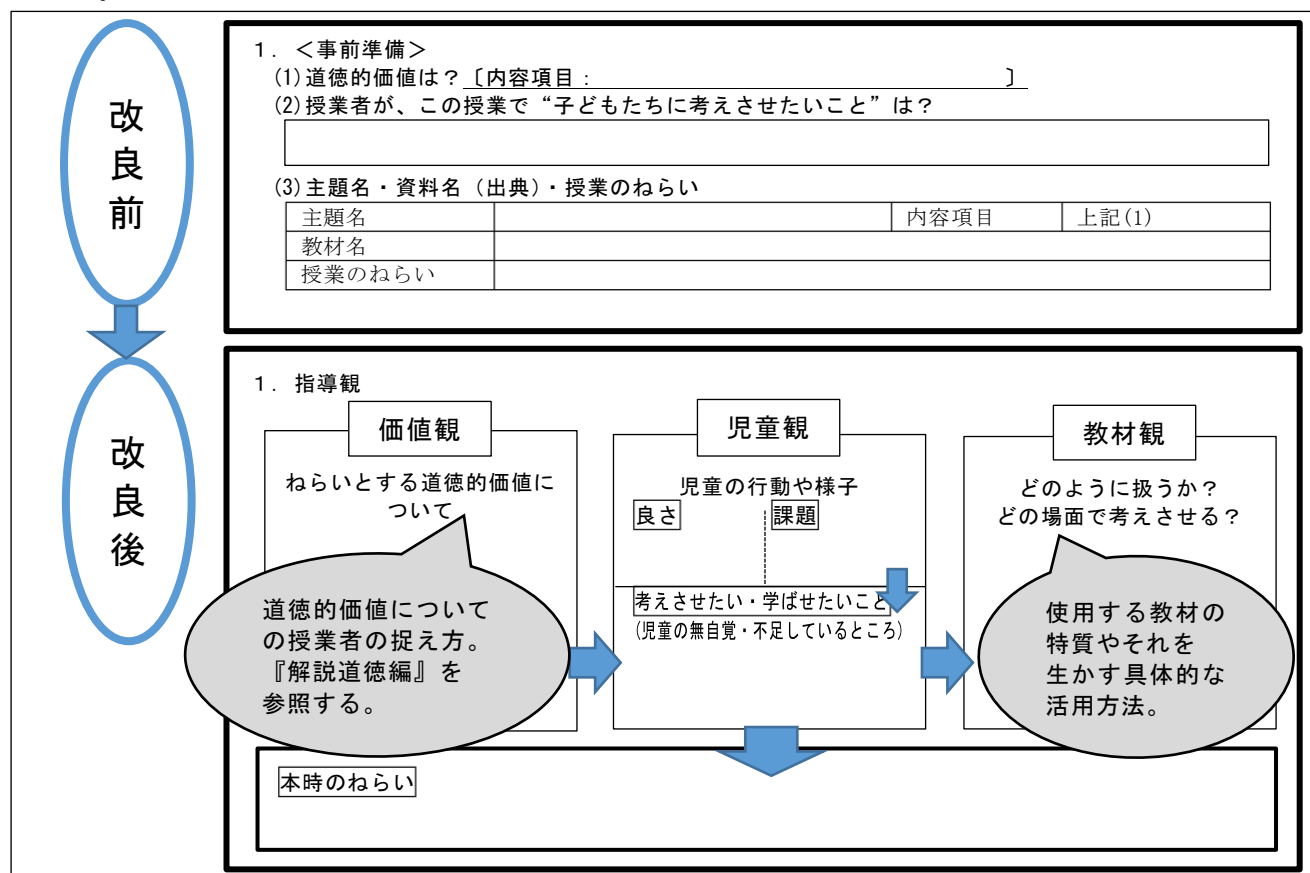


図1 教材分析シート（明確な指導観を生み出す部分）

この手順に沿って考えることで、授業者がこの1時間に児童らに考えさせて、気づかせたい明確な指導観を確立し、本時のねらいを設定することができると思われる。そして、そのねらいを達成するために、中心場面はどこにするのか、どのような順序で何を問うのか、議論させる部分はどこか等、明確な指導観を教材分析の視点に生かし、筋の通った学習指導過程を構想することができる。

3 教材分析の視点

赤堀（2017）は、「道徳的価値の自覚を深めるためには、子どもが自分との関わりで道徳的価値について理解すること、つまり、価値理解、人間理解、他者理解をすることが求められている。」と述べている。つまり、教材を分析し発問を生み出す際の留意点としては、これまでのような登場人物の心情中心の視点ではなく、教材を多面的に捉えた理解（価値理解、人間理解、他者理解）の視点（表1）を中心に教材を分析することで、読み物教材以外の教材でも発問を生み出すことができる考えた。

表1 道徳的価値の理解

価値理解	道徳的価値を人間としてよりよく生きる上で意義深いこと、大切なことであると理解する。
人間理解	道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解する。
他者理解	道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は人によって異なる、また、状況によっては一つではないということを理解する。

具体的には、前項の明確な指導観を確立し、その指導観に基づき「価値理解でどのようなことを押さえるか。」「人間理解はどの部分にあたるのか。」「何について他者理解させるのか。」「自己理解で自覚させたいことは何か。」等を、シートに書き出す。そして、それぞれの理解を深めるには、教材のどの部分で考えさせるのがよいかを分析する（図2）。

その後、本時のねらいと照らし合わせ、どの道徳的価値の理解を重視して学習を展開するのか吟味する。重視する部分が授業の中心的な学習となり、中心発問を生み出すところとなる。

4 発問について

赤堀（2013）は、「発問構成は、資料の中で、教師が最も考えさせたいところに中心的な発問を設定するところから始めるようにします。」と述べている。また、『解説道徳編』には教材を吟味する際、「教材について、授業者が児童に考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているのかを検討する。」とある。教材のストーリー等に沿って発問を設定しようとするれば、教材の展開に左右されやすくなり、授業者の指導観から外れた授業展開になることがある。

そこで、発問を構想する際には（図3）、本時で児童らに最も考えさせたいこと

を問う中心発問から設定する。授業者がどのような意図をもって発問するのかははっきりさせ、本時のねらいにせまるための発問を考える。次に、中心発問による学習が充実するように、前後の発問（基本発問）を設定する。基本発問は、中心発問で考え、議論するために欠くことのできないものにしぼるようにする。基本発問を構想する際も、授業者の指導観を基に、児童に何を考えさせるのか、発問の意図をはっきりさせることが重要であると考えます。

このように、教材分析シートを活用して生み出した明確な指導観と、道徳的価値の理解の視点で行う教材分析を基に発問を設定することで、児童が自分との関わりで考え、道徳的価値を理解する学習指導過程を構想することができると考える。

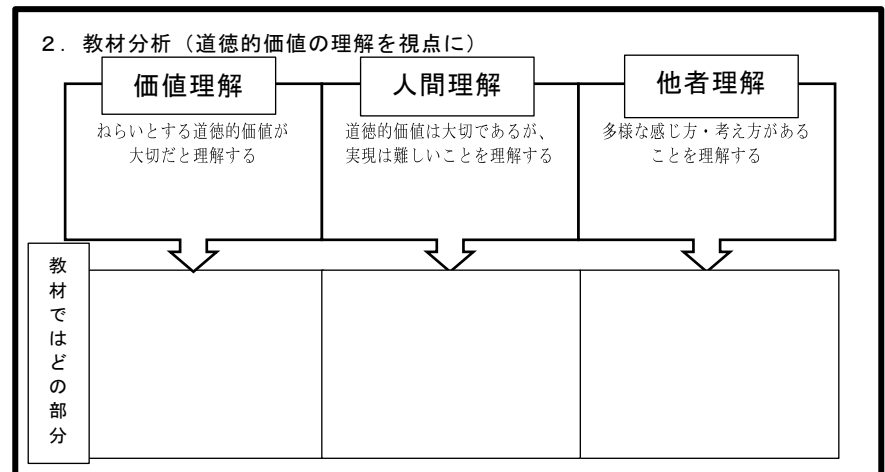


図2 改良後の分析シート（教材分析の部分）

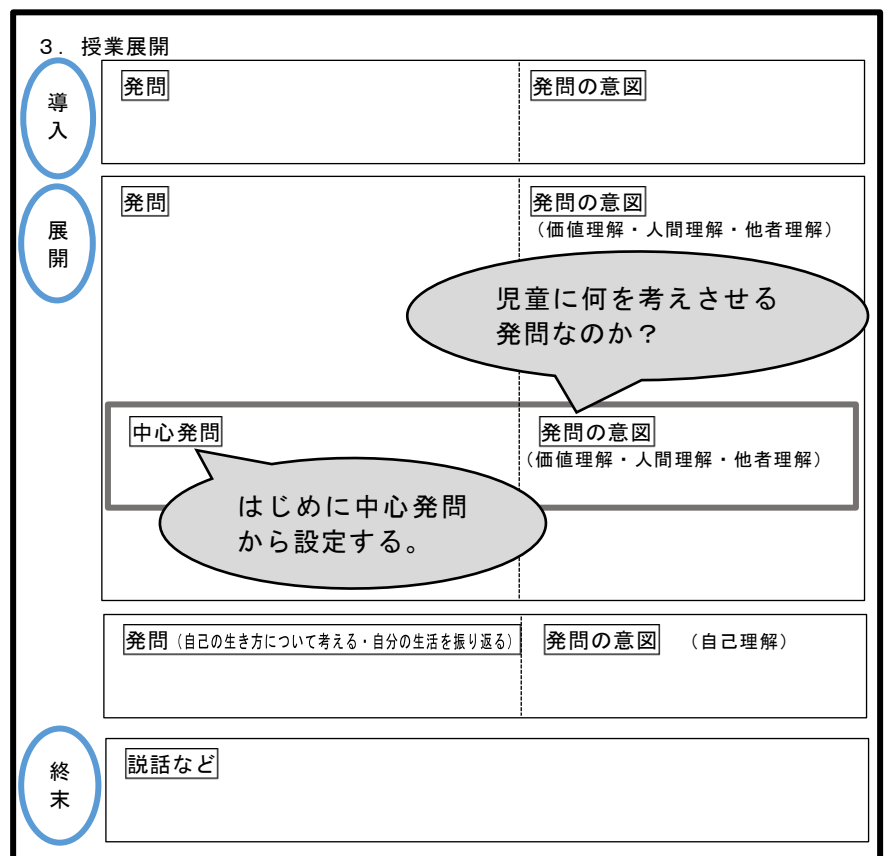


図3 改良後の分析シート（発問を構想する部分）

Ⅲ 指導の実際

1 指導計画（合計 8 時間） 教科書『小学どうとく ゆたかなこころ 2 年』 光文書院

実施日 学級	「教材名」 内容項目	教材の特質	ねらい			中心発問 追発問		
			価値理解	人間理解	他者理解			
1	① 11/27 (水) 2-2 ② 11/29 (金) 2-3	「ジョゼく んとおりが み」 C：国際理 解、国際親善 	主人公のぼ くと友達 のジョゼく んと の交流を、 主人公で あるぼく の視点で 書かれて いる。	ジョゼくんと の交流の中 での「ぼく」 の気持ち を考えるこ とを通して、 他国につい てもっと 知りたいと 思う実践意 欲を育てる。	★自国にも 他国にも それぞれ 文化があ る。色々 なる文化 を知ること が、親し みにつな がる。	他国のこ とで、知 らないこ とは多い。 外国と思 うと、消 極的にな ってしまう。	文化や感 じ方には、 様々なも のがある。 他国には 日本に無 いような ものもあ る。	どうして「ぼ く」は、も っとブラジ ルのこと を知りた くったの だろう。 (価値理 解、他者 理解) 追ブラジ ルのこ とをた くさん 知った 「ぼく」 は満 足する のか な。
	2	③ 12/3 (火) 2-2 ④ 12/5 (木) 2-3	「きれい になっ たずこ うしつ」 C：勤 労、公 共の精 神 	図工室を 片付け る子ど も達の 様子を、 客観的 に観察 してい る視点 の文章。 詩のよ うな形 式。	そうじをし ている子 ども達の 思いを考 えること を通して、 だれかの 役に立つ 充実感を 理解し、 進んで働 こうとす る態度を 育てる。	★だれかの 役に立つと 、嬉しく なる。ま たやりた くなる。	楽な方に 流れてし まう。自 分が面 倒だと思 うと、や りたくな くなる。	何を思 い仕 るが すの か、そ の気持 ちは違 いがある。
3		⑤ 12/10 (火) 2-2 ⑥ 12/13 (金) 2-3	「はたけ の先生」 B：感謝  	お世話にな る老流 石の交 流日記 が、取 り上げ られて いる。 (特定 の主人 公では なく、 複数の 児童の 日記)	お世話をし てくれる 川上さん の思いを 考えるこ とを通 して、身 近な人々 が自分達 に寄せ る思いに 気づき、 感謝しよ うとする 心情を養 う。	★お世話 になっ て近 い人々 の存在 に気づ き、そ の思い を感謝 の気持 ちが生ま れる。	当たり前 だと感 じると、 感謝の 気持ちが もてない。 感謝の 気持ちを 伝える 時がある。 (恥ず かしさ等)	お世話 をする 人もあ る。何 かをし てもら った じり感 持ちは 様々 である。
	4	⑦ 12/16 (月) 2-2 ⑧ 12/19 (木) 2-3	「うつく しいもの、 うつく しいこ ころ」 D：感動、 畏敬の念 	複数の写 真(風景、 人工物、 生物、植 物、人物 等)で構 成され、 文章は ほとんど ない。	美しいと感 じるもの は生活の 中に様々 にあるこ とを理 解し、身 近なもの に感動す る心を 大切に しよ うと する 心 情 を 養 う。	★身の回 りには 美しい もの が色々 ある。 それ に気づ くと、 心 が清々 しく なる。	見た目 の美 しさ が目に いく。 内面的 な美 しさ はに 気づ き にくい。	何を美 しい と思 うか は、人 によ って 違 う。 その理 由(感 じ方) も違 う。

観察記録(発言、つぶやき)、児童の記述(ノート、ワークシート)

観察記録（発言、つぶやき）、児童の記述（ノート、ワークシート）

2 本時の指導（第8時／全8時間）

(1) ねらい

美しいと感じるものは生活の中に様々にあることを理解し、身近なものに感動する心を大切にしようとする心情を育てる。

(2) 展開

学習活動	○主な発問 ○中心発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点
【導入 5分】 1. 「美しい」と感じるものを思い出す。	○どのようなものを見たとき、「美しい」と感じますか？ ・きれいなもの ・美人 ・かっこいい人 ・にじ ・輝いているもの ・ダイヤモンド	・「うつくしい」というキーワードを提示する。 ・ねらいとする価値への方向付けをする。
【展開 35分】 2. 資料「うつくしいもの、うつくしいところ」をもとに、話し合う。	○これらの写真は、どのようなところが「美しい」と感じますか？ グループで、ワークシートに美しいと思った理由を書き込む。  ◎あなたが「美しい」と感じるものはどれですか？ どうしてそれを選んだの？ ・色がきれいだから ・育っている感じがする ・きれいな音が聞こえそう ・一生懸命働いているから ○美しいものや人を見ると、自分はどんな気持ちになりますか？ ・心がきれいになる ・すっきり ・癒される ・気持ちがいい ・落ち着く ○あなたの身のまわりに、「美しいな」と感じるものはありますか？ ・夕焼けはオレンジと黄色が混ざっている ・キラキラ光っている石が美しい ・妹が生まれてきたのが可愛い	・スライドを使い、写真を提示していく。 ・形や色など、見た目の美しさに目がいく写真から提示する。(価値理解、人間理解) ・一見「美しい」と感じにくい写真を提示し、その内面や背景を思い浮かべさせる。(価値理解、人間理解、他者理解) ・美しいと感じるものや感じ方には、多様性があることを知る。(価値理解、人間理解、他者理解) ・美しいものなどを見ると、心が清々しくなることに気づかせる。(価値理解) ・自分の身近なものや人の美しさに目を向けさせる。(自己理解)
3. これまでの経験を振り返り、自分が「美しい」と感じるものを考える。	○先生が「美しい」と感じたものを紹介します。	・児童の学校生活の中から、真剣な姿や笑顔の写真を選び、紹介する。
【終末 5分】 4. 本時のまとめをする。(説話)		

(3) 板書

価値理解をより深める発問
「美しいものを見ると、どんな気持ち？」

児童が「美しい」と感じにくい写真を、後から提示する

12/6(土) 美しいもの、うつくしいところ

気持ちいい (いやさね) スッキリ ワクワク

うつくしい

きれいなもの
にじ
かっこいい
かわいい
すごいと思うもの

① スカイ ツリー 高くすばらしい
きれいなもの

② 桜と川 さくらがいっぱい
あってきれい
・花びらが落ちて
川にないみたい

③ 富士山 雪がふも
てきれい
・青と白

④ 夕日と海 海と夕日が
かざなっている
・オレンジ色

⑤ 棚田 コスモス
たくさん色

⑥ ミツバチ 女王バチの
ためにはたらく
・花の匂いが
かわいい

⑦ 植物
の芽 ね、がたん生
したから。
・みずはじけ
そう。

⑧ パプリカ カラフル
なべたくなる

⑨ シャボン玉 にじ色
キラキラ
ひかっている

⑩ 農作業
をしている人 一生けんめい
はたらくている
・やさしそう

⑪ 赤ちゃん かわいい
・小学生と
大きさがちがう

⑫ オークス
トラ 音楽が
聞こえそう
・たくさんの人
がわ。

うつくしいと思ったもの
と、そのわけ。

身のまわりにあるうつく
しいものと、そのわけ。

・デズーランド
・いつも おきくさんのために
きれいにしている。
・大きい月
→あまり見られない。
・みんなのえがお
→楽しそうだから。

3 仮説の検証

(1) 「教材分析シート」を活用した授業づくり

児童が自分との関わりで道徳的価値の理解を深められるような授業を構想できるかどうか、実際に「教材分析シート」を用いて授業づくりを行った。

① 「教材分析シート」による明確な指導観の生み出し方

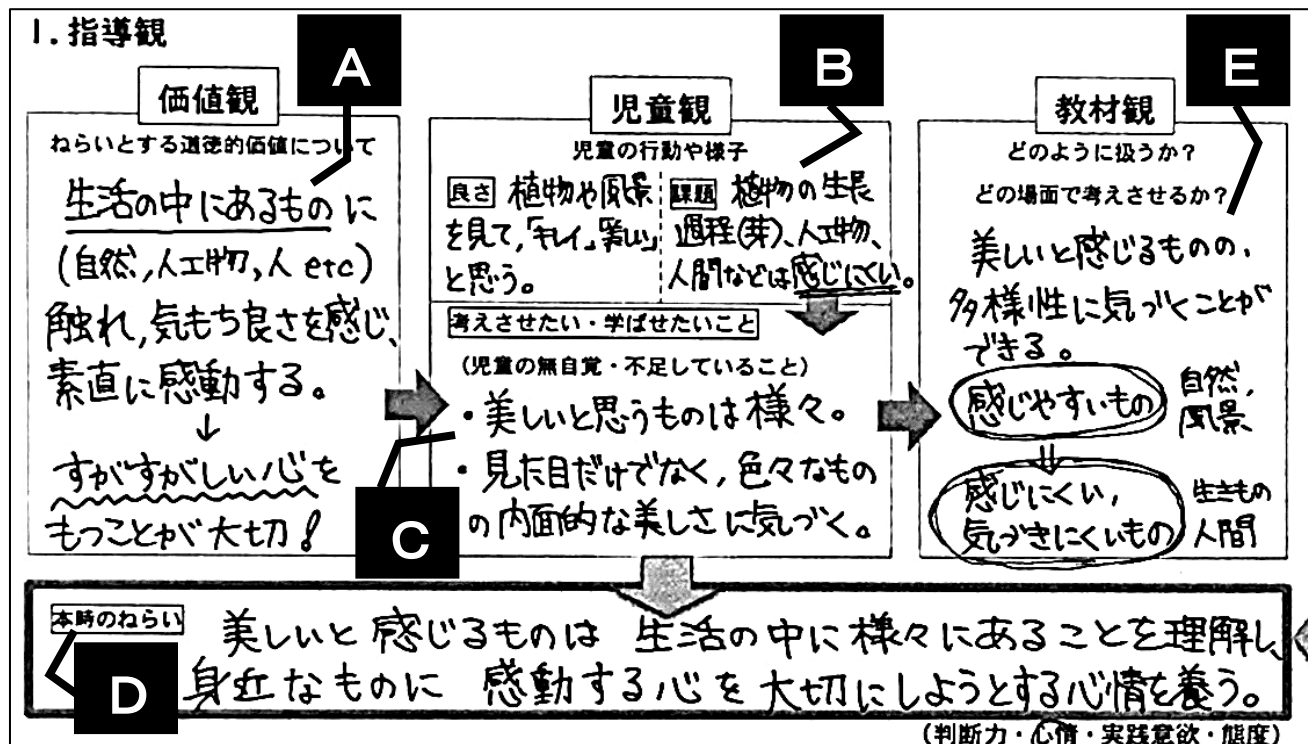


図4 明確な指導観を生み出す部分（実際の分析シート）

明確な指導観を生み出すために、まずは価値観について考える。教材名『うつくしいもの、うつくしいところ』の内容項目は「D 感動，畏敬の念」である。『解説道徳編』の「内容項目の概要」と「指導の要点」を基に、第2学年では、児童にどのようなことを考えさせるのが、よりよく生きることにつながるのか、道徳的価値の意義をおさえた（図4-A）。

次に、道徳的価値に関わる児童の実態を考える。児童の課題（図4-B）と価値観を照らし合わせ、児童の無自覚な部分は何なのかはつきりさせ、本時で児童に考えさせたいことを検討した（図4-C）。

そして、授業者が考えた価値観、児童観を基に、本時はどのようなねらいをもって授業を行うのかを決める（図4-D）。今回の授業では、「美しいものは多様にあることや、内面的な美しさにも気付いてほしい。」という児童観から、「美しいものの多様性に気づき、それに感動する心を大切にすること」をねらいとした。

その後教材を見直し、ねらいを達成するためには教材をどのように扱うのか、教材観を考える（図4-E）。教材観は、児童に考えさせたいこと（図4-C）と密接に繋がる。児童らが道徳的価値について深く考えるには、教材のどの部分をどのように扱うと良いのか検討した。今回の授業では様々な写真の中から、児童が美しいと感じやすい写真を先に、感じにくい写真を後から提示することで、児童が「どうしてだろう？ どんところが美しいかな？」と疑問をもって考えられるように工夫した。

このように、シートを使って価値観、児童観、教材観の繋がりを意識して考えることで、明確な指導観を生み出すことができた。そして、教材分析をしたり発問を考えたりする際、授業者が「児童に考えさせたいこと、気づかせたいこと」は何かを留意しながら授業を構想することができた。

② 道徳的価値の理解（価値理解、人間理解、他者理解）の視点で生み出す発問

指導観を確立した後、道徳的価値の理解（価値理解、人間理解、他者理解）を視点にして教材分析を行う。この時、価値理解は授業者の価値観と（図5-F、図4-A）、人間理解は児童観と（図5-G、図4-BC）を関わらせて考える。感じ方や考え方は多様にあることを理解する他者理解（図5-H）は、1時間の中で最も深く考えさせたい部分と関連させて押さえる。そして、分析シートの下欄には、それぞれの理解を図るには、教材のどの部分をどのように活用すると良いのか、具体的に記入する（図5-I）。

次に中心発問を吟味するが、今回の授業では、本時のねらいとの整合性を考え、価値理解を重視した中心発問を設定した（図6-J）。さらに、価値理解を深める基本発問を加え（図6-K）、児童に「美しいものに触れ、清々しい心をもつ」ことの価値の良さを気づかせた。

発問を設定する時は、どのような意図をもって発問するのか考える（図6-L）。そうすることで、教材分析の部分で考えた道徳的価値の理解（図5-FGH）を押さえているかどうか確認することができた。また、ねらいに向かって、児童の思考がスムーズに流れる発問になっているかどうかを確認することもできた。

発問の意図を明確にすることで、その意図に合った学習活動の工夫を行うことができた。検証授業では、教材の提示方法や児童の発表方法、ワークシートの工夫等、児童が考え、議論するために効果的な活動を取り入れた（図7）。

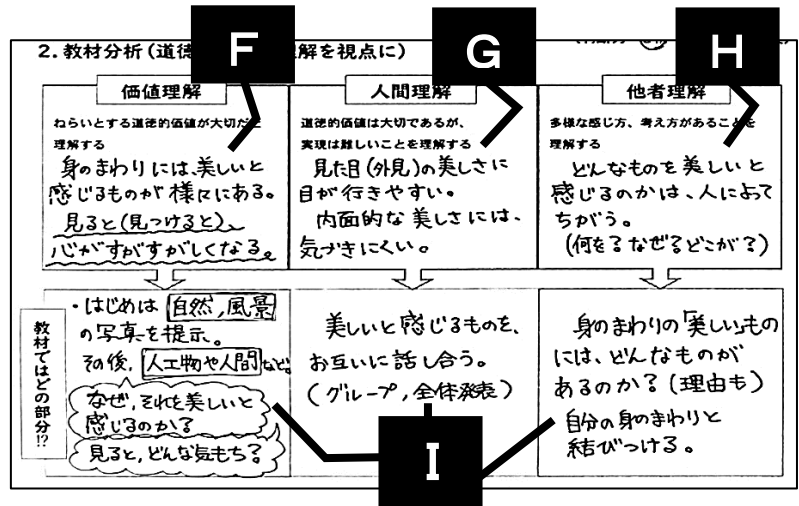


図5 道徳的価値の理解を視点にした教材分析（実際の分析シート）

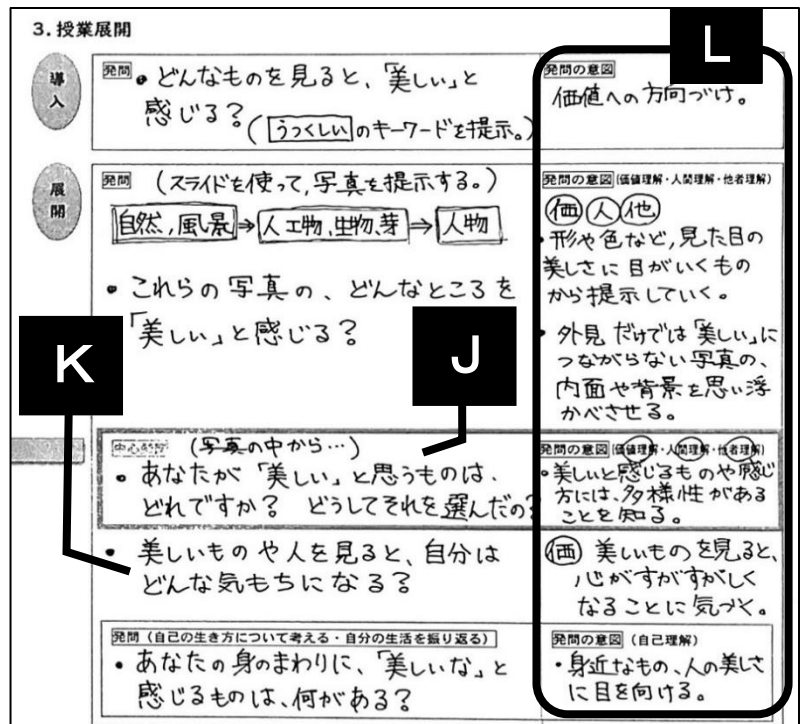


図6 発問を生み出す部分（実際の分析シート）

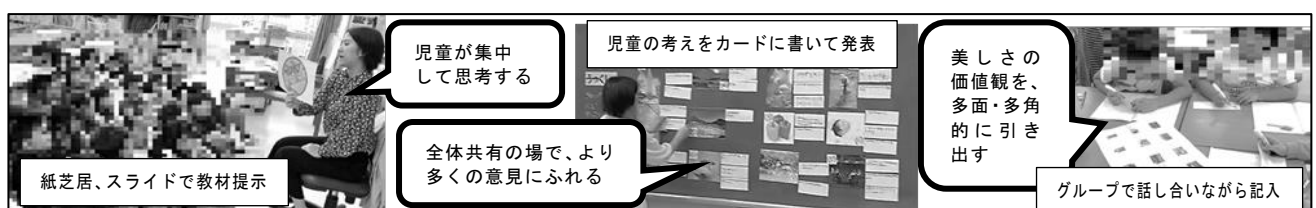


図7 学習活動の工夫

(2) 「教材分析シート」の有用性の検証

① 自分との関わりで道徳的価値を理解する

この分析シートの有用性を検証するために4回の検証授業を行った。「自分との関わりで道徳的価値の理解を深めたか」という点に着目して、検証前の授業のノート記述と比較し、分析を行った。

ア 学級全体のノート記述の分析

登場人物の気持ちを自分事として考えたり、自分の生活や生き方と結び付けて考えたりした児童の割合が、検証前は61.2%であった。検証後は81.5%となり、20.3ポイント上昇した(図8)。また、検証前は自分の生活や生き方と結び付けて考える発問において、無記述の割合が多い児童が4名いた。そのうちの3名は、検証後に無記述が0%という結果になり、残りの1名も無記述の回数は減少した。

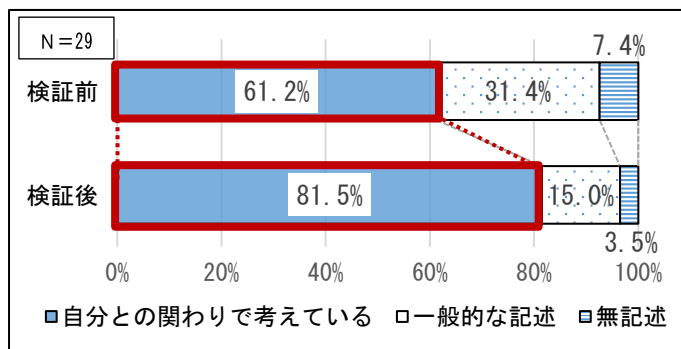


図8 児童の変容(自分との関わりで考えたか)

イ 抽出児童のノート記述より

これまでの授業において、無記述であったり、一般的な考えを書いたりする等、自分との関わりで考えることに課題があった児童A、Bを抽出した。どちらの児童も、検証前は登場人物の心情の読み取りのみで、十分に自分事として考えているとは言えなかった。検証後、児童Aは、家族との関わりの中での経験を思い出して考え、他国の文化について関心が高まっている記述が見られた(図9)。児童Bは、これまでの学校生活での自分の課題に気づき、それを踏まえて「自分はどうしたいのか。」これからの生活への意欲を記述していた(図10)。分析シートを使って授業を構想し実践した結果、道徳的価値について、児童がより深く考えることができたのではないかと考える。

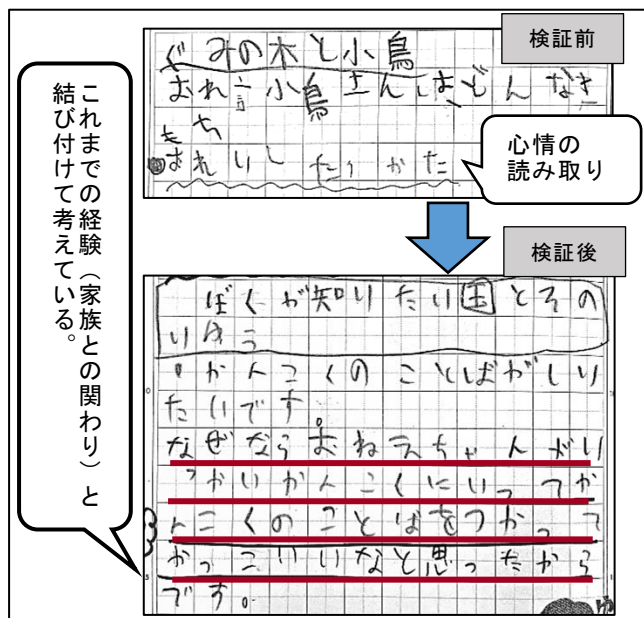


図9 児童Aの変容

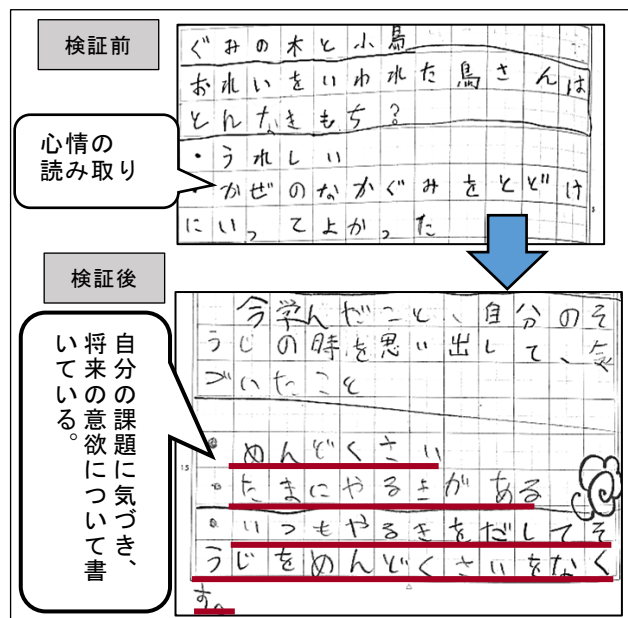


図10 児童Bの変容

② 他教師による「教材分析シート」の活用

他教師にも分析シートを活用してもらい、授業づくりにおける有用性を検証した。教師向けアンケートでは、道徳の授業づくりや授業での児童の様子について振り返ってもらい、その結果を分析した。図11より「授業者は、明確な指導観をもって授業を構想している。」

と答えた割合は、シートの使用者が67%、未使用者が27%であった。また、「児童は、自分の生活や生き方について考えている。」「児童は、自分との関わりで考えている。」と答えた割合は、使用者が67%、未使用者が27%であり、「児童は、うわべだけの考えや表現になっている。」と答えた割合は、使用者が17%、未使用者が60%であった。分析シート活用前と比べて、教師が明確な指導観をもって授業を構想し、児童の考えを深める授業を行えていることがわかる。

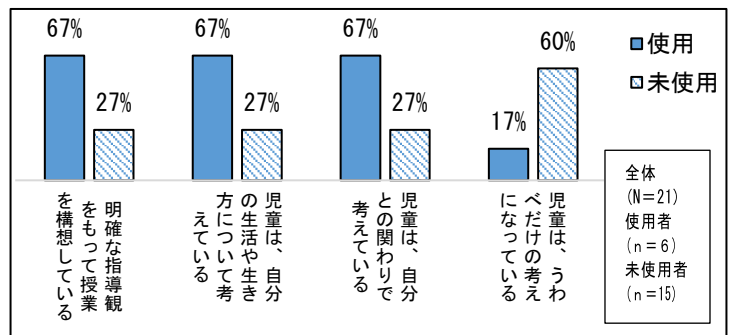


図 11 分析シート使用者、未使用者の比較

次に、「教材分析シート」のどの部分が授業づくりに役立ったのか、他教師の感想をまとめた（図 12、表 2）。

表 2 分析シート使用者からの感想

	図12の① 【指導観を生み出す部分】	○指導要領解説でしっかり確認できた。 ○時間はかかったが、指導要領の見方がわかればできそうな気がする。
	図12の② 【教材分析の部分】	○道徳的価値の理解を、きちんと押さえることができた。 ●価値理解、人間理解、他者理解のところを考えるのが難しい。
	図12の③ 【発問を生み出す部分】	○中心発問と自分の生活を振り返る発問に時間がかかったが、ここから考えると前段の発問も考えることができた。 ○導入から終末までの流れをイメージすることができた。 ○ねらいにせまるための発問を吟味することができた。
	その他	○指導要領を開いてじっくり考える大切さを改めて感じた。 ○シートに沿って教材研究をし、授業を組み立てることができた。ねらいを明確にもって授業をすることができた。 ●慣れるまで時間がかかる。

図 12 分析シート使用者からの感想

「どのようにして1時間のねらいを設定するのか。」「何に基づいて発問を吟味するのか。」等、授業を構想するための手立てとして、他教師にとっても、この分析シートは有用性があると考えられる。しかし、シートを活用する時の課題（表 2 内の●）も挙げられた。この課題は、シートを活用した授業づくりや、他の教師との勉強会、『解説道徳編』を熟読する等、他教科と同様に授業改善を積み重ねることで解消されると思われる。

以上のことより、「教材分析シート」を活用して明確な指導観を確立することで、ねらいにせまるための適切な発問や学習活動を設定することができ、児童が自分との関わりで道徳的価値の理解を深める授業ができた。また、他教師も明確な指導観をもって授業を構想することができたので、この分析シートの有用性を確認できた。

IV 成果と課題

1 成果

- (1) 道徳的価値の理解（価値理解、人間理解、他者理解）を視点に教材分析を行うことで、「教材分析シート」を読み物教材以外の様々な教材に活用することができ、日々の授業実践に活かすことができた。
- (2) 明確な指導観を支える「教材分析シート」を活用することで、教師は、価値観、児童観、教材観の繋がりをより強く意識しながらねらいにせまる発問を構想することができ、児童が自分との関わりで道徳的価値を理解することができた。

2 課題

- (1) より多くの教師が、日々の授業実践に「教材分析シート」を活用できるように、道徳推進教師と連携して分析シートの有用性を広く伝えたり、校内研修等の機会を利用して分析シートの使い方を伝えたりする必要がある。

〈参考文献〉

- 永田繁雄編著 2019 『小学校道徳 指導スキル大全』 明治図書出版株式会社
- 赤堀博行編著 2018 『小学校 考え、議論する 道徳科授業の新展開 低学年』 東洋館出版社
- 加藤宣行 2018 『加藤宣行の道徳授業 考え、議論する道徳に変える発問&板書の鉄則 45』 明治図書出版株式会社
- 坂本哲彦 2018 『小学校 新学習指導要領 道徳の授業づくり』 明治図書出版株式会社
- 文部科学省 2018 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編』 廣済堂あかつき株式会社
- 赤堀博行 2017 『「特別の教科 道徳」で大切なこと』 東洋館出版社
- 加藤宣行 2017 『加藤宣行の道徳授業 考え、議論する道徳に変える指導の鉄則 50』 明治図書出版株式会社
- 永田繁雄編著 2017 『平成 29 年版 小学校 新学習指導要領ポイント総整理 特別の教科 道徳』 東洋館出版社
- 赤堀博行監修 萩原武雄・荒木徳也・生越詔二・波岡輝男・長谷徹・後藤忠編著 2016 『これからの道徳教育と「道徳科」の展望』 東洋館出版社
- 赤堀博行 2013 『道徳授業で大切なこと』 東洋館出版社